

商店街にIT企業進出

まちなかシリコンバレー構想
学生アプリ開発協力へ

銀座通商店街振興組合(内田康雄理事長)などが取り組んでいる、まちなかシリコンバレー構想。IT企業、株式会社ASKプロジェクト(橋爪康知代表取締役)が進出することが決まった。大牟田市の街づくり基金の補助で空き店舗を整備。二階部分に入居する。

株式会社ASKプロジェクトは、コンピュータシステムやスマートフォンなどの多機能型端末で使う「アプリ」を開発、販売する。システムやアプリの開発には、有明高専や佐賀大学の学生に協力を依頼するとしている。

まちなかシリコンバレー構想は、有明高専電子情報工学科の石川洋平准教授の研究室で学んでいる学生たちがベンチャービジネスコンテストで表彰を重ねており、実践的技術教育、実証の場として、商店街の空き店舗を活用。学生と地域住民が交流する場所と、IT企業などが入居する場を整備。商店街に学生や研究者が集い、新たな交流を生み出すことと、アメリカのシリコンバレーのように先端技術を持つIT企業の集積地となることを目指している。

石川准教授は「学生たちが教育の場として新会社にアプリ開発などで関わることには、これまでなかなか市民の皆さんに私たちの研究が普段の生活から遠いものと思われていたことが、身近に感じていただける機会になると思います。私たちが企業と協力し、便利なアプリを提供していきます」と話した。